

— 令和 2 年度 —

高知県公立高等学校入学者選抜における
学力検査の結果分析

令和 2 年 6 月

高 知 県 教 育 委 員 会

目 次

令和2年度高知県公立高等学校入学者選抜における学力検査の結果分析のまとめ	1
I 令和2年度高知県公立高等学校入学者選抜の概要	2
II 学力検査（A日程及び連携型特別選抜）の実施結果	6
1 学力検査出題の方針	
2 学力検査結果の全体的な状況	
III 学力検査（A日程及び連携型特別選抜）の教科別状況	10
国語	10 - 11
社会	12 - 13
数学	14 - 17
理科	18 - 19
英語	20 - 21

令和2年度高知県公立高等学校入学者選抜における学力検査の結果分析のまとめ

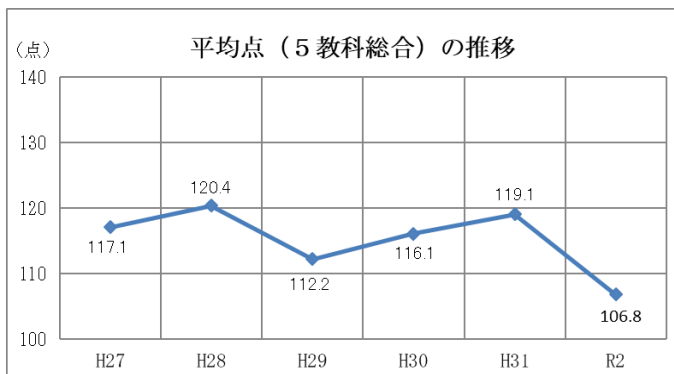
(A日程及び連携型中高一貫教育校に係る特別選抜)

【Ⅰ】入学者選抜の概要

受検者数・合格率の推移

	受検者数	合格率
平成27年度	4,409名	90.4%
平成28年度	4,434名	89.4%
平成29年度	4,349名	91.2%
平成30年度	4,124名	92.1%
平成31年度	4,010名	93.0%
令和2年度	3,836名	92.4%

【Ⅱ】学力検査の実施結果



【Ⅲ】学力検査の教科別状況

結果の分析	
総合	5教科総合の平均点は106.8点で、昨年度より12.3点下がった。200点以上の受検者数は減少し、74点以下の受検者数は増加した。各教科ともに、基礎的・基本的な知識・技能については一定の定着がみとめられるが、思考力・判断力・表現力等については課題がある。特に、実生活における課題解決の場面を想定した問いや、事象や概念を的確に説明したり、与えられた条件のもとで他者に分かりやすく伝えたりする力をみる記述式の問題等は正答率が低い。
国語	平均点は20.4点で、昨年度より2.2点下がった。言葉の特徴やきまり、漢字、表現の技法等における基礎的事項の定着や、社会生活において必要な語彙の習熟が十分とは言えない。また、一定の分量の文章を展開に即して正確に読み取り、条件に合わせて適切に書き表すことについて課題がある。
社会	平均点は19.4点で、昨年度より5.7点下がった。基礎的事項については一定の定着がうかがえるが、全分野を通して、社会的事象の内容や背景などを適切に表現する力、資料から情報を読み取り、既習事項と関連付けて総合的に思考・判断・表現する力などに課題がある。歴史的分野では、特に歴史の大きな流れをつかむ力が十分ではない。
数学	平均点は19.0点で、昨年度より0.5点上がった。「数と式」については、基礎的・基礎的事項は一定の力が付いていると思われるが、十分とは言えない。「図形」、「関数」、「資料の活用」についてはまだ課題がみられる。また、各領域とも、思考力・判断力・表現力を問う記述式問題、知識・技能を活用する問題に課題がある。
理科	平均点は23.3点で、昨年度より2.4点下がった。「第1分野」・「第2分野」とともに、基礎的・基本的な科学用語については一定の定着がうかがえるが、実験によって得られた数値を数式に当てはめ計算したり、観察・実験に関する基本操作や科学的な事象が発生するしくみを文章で表現したりする能力に課題がみられる。
英語	平均点は24.7点で、昨年度より2.4点下がった。聞いたり読んだりして、概要や要点をつかむことについては一定の力がみとめられるが、語順や時制などの基本的な文法事項を理解すること、場面に応じてまとまりのある英文を書くことについては課題がある。また、聞いて書く、読んで書くなど、技能を統合的に活用する力を問う問題は全体的に正答率が低い。

【Ⅳ】今後の学習指導の重点項目

各教科等における基礎的・基本的な知識・技能を、自身の体験や実社会のできごとなどと結び付けながら活用し、課題を解決する学習活動を重視して、思考力・判断力・表現力等を育む。

I 令和2年度高知県公立高等学校入学者選抜の概要

1 全体

	入学定員	合格者総数
全 日 制	5,330	3,831
多 部 制	200	94
定 時 制	560	39
合 計	6,090	3,964

(併設中学校からの進学者を含む。)

○定員充足率 (%)		前年比 (ポイント)
全日制の課程	71.9	-3.0
多部制の課程	47.0	-12.0
定時制の課程	7.0	-1.8

2 (1)A日程

	A日程定員	受検者数	合格者数
全 日 制	5,330	3,665	3,385
多 部 制	120	76	69
合 計	5,450	3,741	3,454

○合格率 (%)		前年比 (ポイント)	○不合格者数 (人)		前年比 (人)
全日制の課程	92.4	-0.8	全日制の課程	280	+20
多部制の課程	90.8	+7.9	多部制の課程	7	-13

(2)連携型特別選抜

	受検者数	合格者数
全 日 制	95	91

※連携型中高一貫教育校に係る特別選抜の募集定員は、入学定員内とし、特に定めない。

3 B日程

	B日程定員	受検者数	合格者数
全 日 制	1,666	201	170
多 部 制	131	28	20
定 時 制	560	34	29
合 計	2,357	263	219

○合格率 (%)		前年比 (ポイント)	○不合格者数 (人)		前年比 (人)
全日制の課程	84.6	+2.0	全日制の課程	31	0
多部制の課程	71.4	+4.8	多部制の課程	8	0
定時制の課程	85.3	+5.7	定時制の課程	5	-4

4 C日程

	C日程定員	受検者数	合格者数
多 部 制	75	6	5
定 時 制	531	13	10
合 計	606	19	15

5 定員内不合格(全日制のみ)

	定員内不合格者数		
	A日程	連携型特別選抜	B日程
令和2年度	128	4	31

令和2年度 高知県公立高等学校入学者選抜合格者等の状況（学校別）

No. 1 全日制

学校名	学科(科)名	入 学 定 員	A日程			B日程				合 格 者 総 数	空 定 員	入 学 許 可 者 数	
			志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	日 程 定 員	志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数				
室戸	総合	80	28	28	27	53	0	0	0	27	53	27	
安芸	普通	120 ⁽⁹³⁾	28	28	28	65	0	0	0	55	65	55	
安芸桜ヶ丘	工業(環建)	20	4	4	2	18	0	0	0	2	18	2	
	土木												
	工業(建築)	20	3	3	2	18	0	0	0	2	18	2	
	商業(情ビ)	40	20	20	18	22	1	1	1	19	21	19	
城山	普通	80	28	27	24	56	23	17	10	34	46	33	
山田	普通	80	87	87	80	なし				80	0	80	
	探究(グローバル)	80	24	24	15	65	7	5	1	16	64	16	
	商業(ビ探)	40	15	15	18	22	7	7	10	28	12	28	
嶺北	普通	80	11	11	9	49	6	6	3	34	46	34	
高知農業	農業(農総)	40	36	36	35	5	0	0	0	35	5	35	
	農業(畜総)	40	39	39	36	4	0	0	0	36	4	36	
	農業(森総)	40	21	21	18	22	1	1	1	19	21	19	
	農業(環土)	40	33	33	31	9	1	1	0	31	9	31	
	農業(食ビ)	40	32	32	30	10	2	2	2	32	8	32	
	農業(生総)	40	33	33	32	8	4	4	3	35	5	35	
高知東工業	工業(機械)	40	46	46	40	なし				40	0	40	
	工業(機械シ)	40	26	26	20	20	2	2	0	20	20	20	
	工業(電子)	40	22	22	20	20	0	0	0	20	20	20	
	工業(電機)	40	18	18	18	22	1	1	1	19	21	19	
岡豊	普通	240	232	229	219	21	9	9	8	227	13	227	
	普通(芸術コース)	40	29	29	23	17	1	1	0	23	17	23	
	普通(体育コース)	40	35	35	31	9	3	3	2	33	7	33	
高知東	総合	200	226	226	200	なし				200	0	200	
	看護(看護)	30	21	21	21	9	1	1	1	22	8	22	
高知南	普通	200 ⁽¹¹⁹⁾	117	117	115	4	4	3	3	199	1	199	
	国際(国際)	40 ⁽²⁸⁾	11	11	11	17	7	7	7	30	10	30	
高知工業	工業(機械)	40	36	35	35	5	2	2	2	37	3	37	
	工業(電気)	40	36	34	35	5	0	0	0	35	5	35	
	工業(情技)	40	32	31	30	10	1	1	1	31	9	31	
	工業(工化)	40	20	19	21	19	8	7	6	27	13	27	
	工業(土木)	40	42	42	40	なし				40	0	40	
	工業(建築)	40	37	36	36	4	4	4	4	40	0	40	
	工業(総デ)	40	44	44	40	なし				40	0	40	
高知追手前	普通	280	251	251	247	33	1	1	0	247	33	247	
	吾北	40	9	8	8	32	2	2	2	10	30	10	
高知丸の内	普通	140	160	160	140	なし				140	0	140	
	チャレンジA	10	12	10	7					7	3	7	
	音楽(音楽)	30	10	10	12	18	0	0	0	12	18	12	
高知小津	普通	240	248	248	240	なし				240	0	240	
	理数(理数)	40	32	31	32	8	4	4	3	35	5	34	
高知西	普通	240	274	271	240	なし				240	0	240	
	外国語(英語)	40	37	37	40	なし				40	0	40	
伊野商業	商業(キャリア)	160	119	118	106	54	32	29	26	132	28	132	
春野	総合	160	95	94	80	80	21	21	19	99	61	99	
高岡	普通	80	17	17	16	64	6	5	5	21	59	20	
高知海洋	水産(海洋)	80	33	33	29	51	15	15	13	42	38	42	
	船舶職員養成課程	[10]	[5]	[5]	[2]	[8]	[0]	[0]	[0]	[2]	[8]	[2]	
須崎総合	普通	120	69	68	63	57	11	10	10	73	47	73	
	工業(機械系)	機械	20	16	16	15	5	0	0	0	15	5	15
		造船	20	8	8	7	13	0	0	0	7	13	7
	工業(電情系)	電気	20	11	11	11	9	0	0	0	11	9	11
		電情	20	11	11	11	9	0	0	0	11	9	11
	工業(シ工系)	機制	20	3	3	3	17	2	2	2	5	15	5
工業	住環	20	11	11	11	9	0	0	0	11	9	11	
佐川	普通	80	27	27	25	55	7	7	7	32	48	32	
窪川	普通	80	13	13	10	70	4	4	4	14	66	14	
構原	普通	80	13	13	12	42	2	2	2	40	40	40	
四万十	普通	40	5	5	5	25	0	0	0	15	25	15	
	普通(自環コース)	40	7	6	4	36	0	0	0	4	36	4	

(注1) 安芸、高知南、中村の()内の数字は、A日程の募集定員を示したものである。

(注2) 高知海洋高校船舶職員養成課程の[]は内数

(注3) 嶺北、構原、四万十、清水の合格者総数には、連携型中高一貫教育校に係る特別選抜合格者数を含む

(注4) 安芸、高知南、中村の合格者総数には、併設中学校からの進学者数を含む

No. 2 全日制

学校名	学科(科)名	入学定員	A日程			B日程			合格者総数	空定員	入学許可者数	
			志願者数	受検者数	合格者数	B日程定員	志願者数	受検者数				合格者数
大方	普通	80	28	28	25	55	5	5	2	27	53	27
幡多農業	農業(園シス)	40	19	19	19	21	0	0	0	19	21	19
	農業(アグリ)	40	29	29	28	12	0	0	0	28	12	28
	農業(グリーン)	40	15	15	14	26	0	0	0	14	26	14
	農業(コーディネート)	40	25	25	24	16	1	1	1	25	15	25
中村	普通	200 (135)	109	109	106	29	0	0	0	171	29	171
	西土佐 普通	40	4	3	3	37	3	3	3	6	34	6
宿毛工業	工業(機械) 〔機械〕	20	20	20	20	なし				20	0	20
	工業 〔自動車〕	20	8	8	6	14	1	1	1	7	13	7
	工業(建設) 〔土木〕	20	21	21	20	なし				20	0	20
	工業 〔建築〕	20	14	13	13	7	0	0	0	13	7	13
	工業(電気)	40	10	9	10	30	1	0	0	10	30	10
	工業(情技)	40	26	26	26	14	0	0	0	26	14	26
宿毛	総合	120	57	57	56	64	3	3	3	59	61	59
清水	普通	80	1	1	1	46	1	1	1	35	45	35
県立計		5050 (4865)	3349	3325	3105	1666	217	201	170	3551	1499	3548

高知商業	商業(総合マネ)	140	165	164	140	なし				140	0	140
	商業(社会マネ)	70	90	89	70	なし				70	0	70
	商業(情報マネ)	35	46	46	35	なし				35	0	35
	商業(スポマネ)	35	41	41	35	なし				35	0	35
市立計		280	342	340	280	0	0	0	0	280	0	280

合計		5330 (5145)	3691	3665	3385	1666	217	201	170	3831	1499	3828
----	--	-------------	------	------	------	------	-----	-----	-----	------	------	------

(注1) 安芸、高知南、中村の合格者総数には、併設中学校からの進学者数を含む

(注2) B日程合格者数には、A日程の追検査による合格者を含む

令和2年度 連携型中高一貫教育校に係る特別選抜合格者等の状況(学校別)

学校名	学科(科)名	入学定員	特別選抜			
			特別選抜定員	志願者数	受検者数	合格者数
嶺北	普通	80	入学定員内	26	26	22
樽原	普通	80	入学定員内	26	26	26
四万十	普通	40	入学定員内	10	10	10
	普通(自環コース)	40	入学定員内	0	0	0
清水	普通	80	入学定員内	34	33	33
合計		320		96	95	91

令和2年度 高知県公立高等学校入学者選抜合格者等の状況（学校別）

多部制単位制

学校名	学科(科)名	入 学 定 員 [成人]	A日程			B日程			C日程			合 格 者 総 数	空 定 員	入 学 許 可 者 数 [成人]		
			志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	B 日 程 定 員 [成人]	志 願 者 数 [成人]	受 検 者 数 [成人]	合 格 者 数 [成人]	C 日 程 定 員 [成人]	志 願 者 数				受 検 者 数	合 格 者 数
中 芸	普通(昼間)	40	11	10	8	32	7	7	5				13	27	13	
	普通(夜間)	40 [4]				40 [4]	3 [0]	3 [0]	2 [0]	38	2	2	2	4	36	4 [0]
高知北	普通(昼間)	80	71	66	61	19	15	12	10				71	9	71	
	普通(夜間)	40 [4]				40 [4]	7 [1]	6 [0]	3 [0]	37	4	4	3	6	34	6 [0]
合 計		200 [8]	82	76	69	131 [8]	32 [1]	28 [0]	20 [0]	75	6	6	5	94	106	94 [0]

(注1) 成人の [] は内数

定時制

学校名	学科(科)名	入 学 定 員 [成人]	A日程			B日程			C日程			合 格 者 総 数	空 定 員	入 学 許 可 者 数 [成人]		
			志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	B 日 程 定 員 [成人]	志 願 者 数 [成人]	受 検 者 数 [成人]	合 格 者 数 [成人]	C 日 程 定 員 [成人]	志 願 者 数				受 検 者 数	合 格 者 数
室 戸	普通	40 [4]				40 [4]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	0	0	0	1	39	1 [0]
山 田	普通	40 [4]				40 [4]	6 [0]	5 [0]	2 [0]	38	1	1	0	2	38	2 [0]
高知東工業	工業(機械)	40 [4]				40 [4]	3 [0]	3 [0]	1 [0]	39	5	5	3	4	36	4 [0]
高知工業	工業(機械)	40 [20]				40 [20]	0 [0]	0 [0]	0 [0]	40	2	2	2	2	38	2 [0]
	工業(電気)	40 [20]				40 [20]	2 [1]	2 [1]	2 [1]	38	0	0	0	2	38	2 [1]
	工業(土木)	40 [20]				40 [20]	2 [1]	2 [1]	2 [1]	38	1	1	1	3	37	3 [1]
	工業(建築)	40 [20]				40 [20]	1 [1]	1 [1]	1 [1]	39	0	0	0	1	39	1 [1]
高 岡	普通	40 [8]				40 [8]	6 [0]	6 [0]	6 [0]	34	1	1	1	7	33	7 [0]
須崎総合	普通	40 [4]				40 [4]	3 [0]	3 [0]	3 [0]	37	0	0	0	3	37	3 [0]
佐 川	普通	40 [8]				40 [8]	8 [0]	8 [0]	8 [0]	32	0	0	0	8	32	8 [0]
大 方	普通	40 [4]				40 [4]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	0	0	0	1	39	1 [0]
宿 毛	普通	40 [4]				40 [4]	0 [0]	0 [0]	0 [0]	40	3	3	3	3	37	3 [0]
清 水	普通	40 [4]				40 [4]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	0	0	0	1	39	1 [0]
合 計		520 [124]				520 [124]	34 [3]	33 [3]	28 [3]	492	13	13	10	38	482	38 [3]
高知商業	商業(商業)	40 [4]				40 [4]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	0	0	0	1	39	1 [0]
総 合 計		560 [128]				560 [128]	35 [3]	34 [3]	29 [3]	531	13	13	10	39	521	39 [3]

(注1) 成人の [] は内数

Ⅱ 学力検査(A日程及び連携型特別選抜)の実施結果

1 学力検査出題の方針

中学校学習指導要領にそって、基礎的・基本的な知識・技能の定着と、学習や実生活の場面において、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の力をみるものとした。

- 1 中学校における日常の学習活動に基づく内容とした。
- 2 各教科においては、一部の領域に偏らないようにした。
- 3 検査時間等を考慮し、適切な問題量とした。

2 学力検査結果の全体的な状況

(1) 学力検査受検者数等(令和2年3月4日実施分)

学力検査受検者数		
A日程学力検査受検者数	連携型中高一貫教育校に係る特別選抜受検者数	計
3,741人 (3,901人)	95人 (109人)	3,836人 (4,010人)

(注) ()内は平成31年度の受検者数である。

(2) 平均点(各教科とも50点満点)

教科	国語	社会	数学	理科	英語	総合
平均点	20.4 (22.6)	19.4 (25.1)	19.0 (18.5)	23.3 (25.7)	24.7 (27.1)	106.8 (119.1)

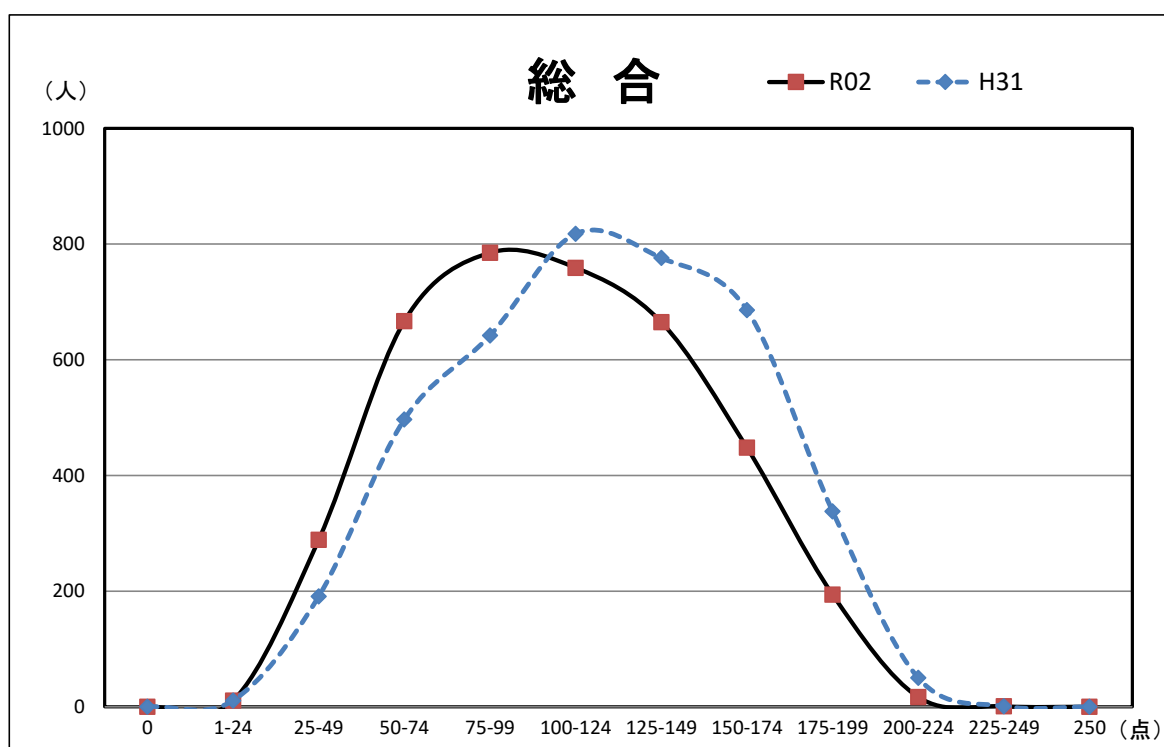
(注) ()内は平成31年度の値である。

(3)個人別総合得点度数分布表(250点満点)

得点階級	度数	得点階級	度数	得点階級	度数	得点階級	度数
0～4	0 (0)	65～69	148 (120)	130～134	137 (164)	190～194	29 (44)
5～9	0 (1)	70～74	145 (119)	135～139	111 (138)	195～199	21 (38)
10～14	0 (1)	75～79	150 (121)	140～144	144 (180)	200～204	8 (24)
15～19	4 (3)	80～84	141 (126)	145～149	132 (156)	205～209	3 (17)
20～24	7 (6)	85～89	153 (118)	150～154	121 (129)	210～214	5 (5)
25～29	24 (17)	90～94	174 (139)	155～159	91 (170)	215～219	1 (1)
30～34	40 (26)	95～99	167 (138)	160～164	92 (142)	220～224	0 (3)
35～39	66 (29)	100～104	168 (151)	165～169	90 (117)	225～229	1 (1)
40～44	76 (60)	105～109	129 (162)	170～174	54 (128)	230～234	0 (0)
45～49	83 (59)	110～114	154 (160)	175～179	64 (105)	235～239	0 (0)
50～54	106 (70)	115～119	138 (158)	180～184	44 (89)	240～244	0 (0)
55～59	129 (92)	120～124	170 (187)	185～189	36 (62)	245～250	0 (0)
60～64	139 (96)	125～129	141 (138)				

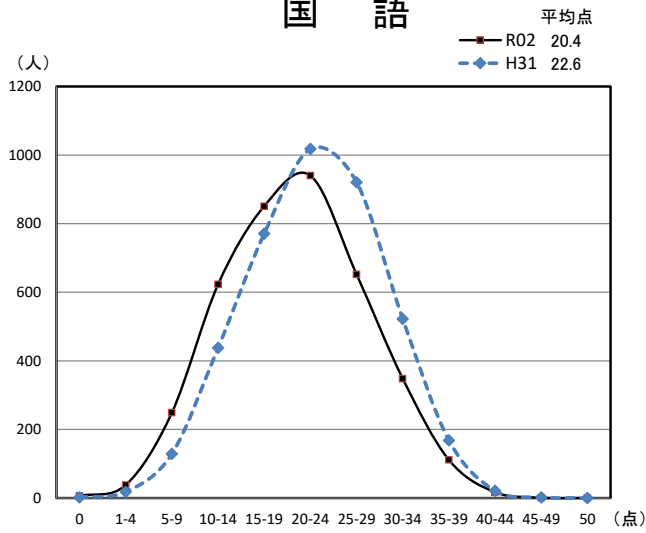
(注) ()内は平成31年度の値である。

平均点 106.8 (昨年度119.1)

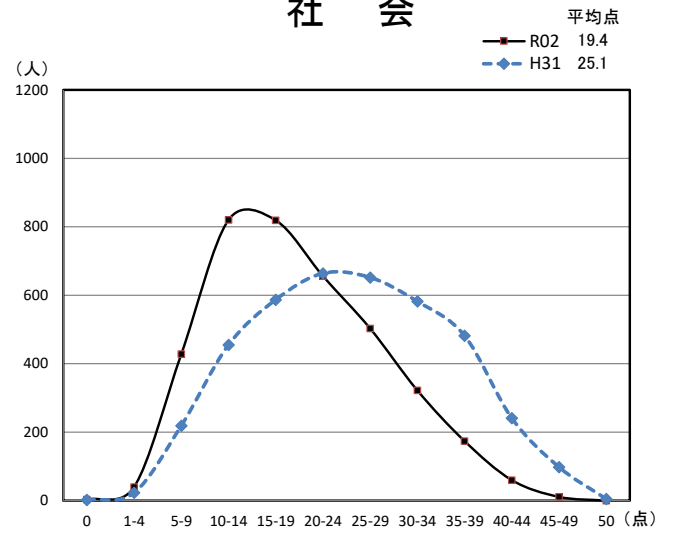


(4)教科別得点度数グラフ

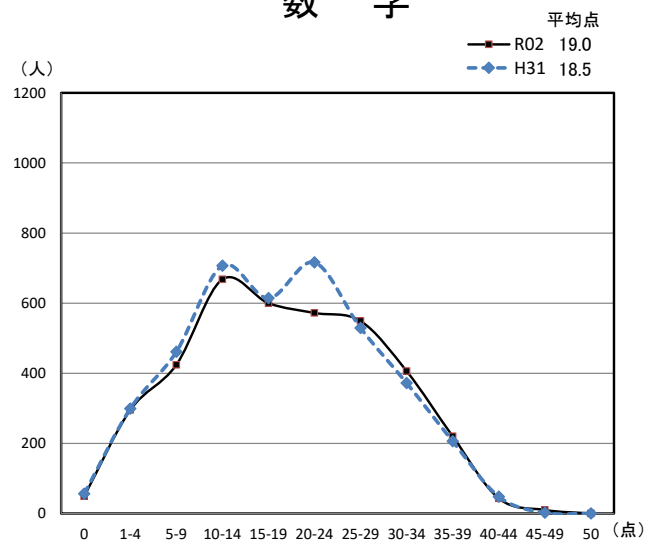
国 語



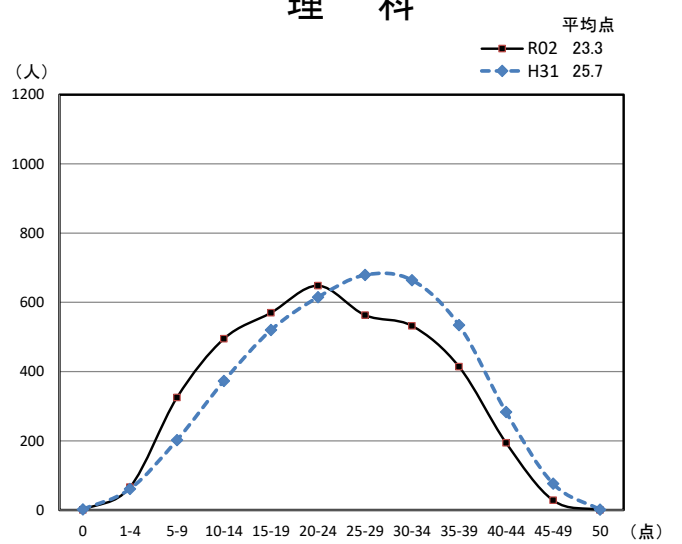
社 会



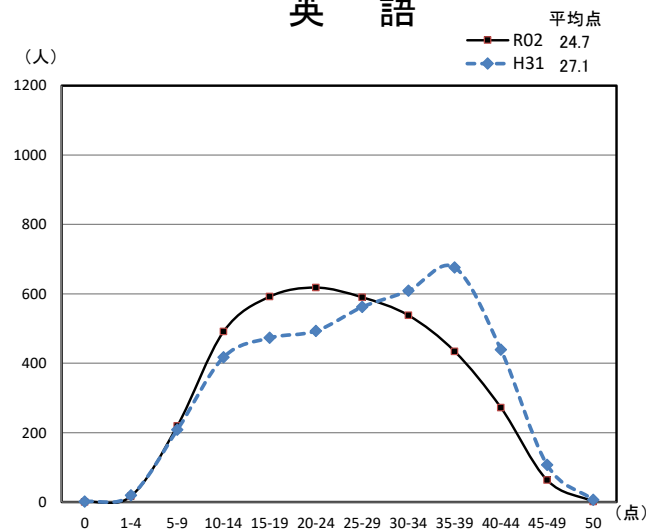
数 学



理 科



英 語



(5) 過年度比較

平均点の推移(各教科とも50点満点)

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	総 合
平成27年度	20.2	25.6	23.2	20.4	27.7	117.1
平成28年度	25.1	26.9	18.5	24.4	25.4	120.4
平成29年度	22.6	25.1	17.9	19.9	26.8	112.2
平成30年度	20.4	24.4	21.8	23.7	25.8	116.1
平成31年度	22.6	25.1	18.5	25.7	27.1	119.1
令和2年度	20.4	19.4	19.0	23.3	24.7	106.8
前年比増減	-2.2	-5.7	+0.5	-2.4	-2.4	-12.3

満点の人数

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	合 計
平成27年度	0	2	2	0	17	21
平成28年度	0	7	0	0	11	18
平成29年度	0	6	0	1	12	19
平成30年度	0	4	2	7	3	16
平成31年度	0	5	0	1	6	12
令和2年度	0	0	0	0	1	1
前年比増減	±0	-5	±0	-1	-5	-11

0点の人数

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	合 計
平成27年度	0	1	51	3	1	56
平成28年度	2	4	79	1	2	88
平成29年度	1	1	16	11	0	29
平成30年度	2	0	41	3	3	49
平成31年度	2	2	56	2	1	63
令和2年度	6	3	49	0	0	58
前年比増減	+4	+1	-7	-2	-1	-5

250点満点で200点以上と74点以下の人数

()内は%

	200点以上	74点以下
平成27年度	106 (2.40)	905 (20.53)
平成28年度	70 (1.58)	716 (16.15)
平成29年度	51 (1.17)	935 (21.50)
平成30年度	92 (2.23)	852 (20.66)
平成31年度	51 (1.27)	699 (17.43)
令和2年度	18 (0.47)	967 (25.21)
前年比増減	-33	+268

Ⅲ 学力検査（A日程及び連携型特別選抜）の教科別状況

国語

1 出題のねらい

「書くこと」、「読むこと」の2領域と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕について、基礎的・基本的な知識・理解と、国語を適切に表現し正確に理解する力をみることをねらいとした。

- (1) 「書くこと」については、文章の展開に即して内容をとらえたり、文章の内容について自分の考えをもったりしたうえで、目的や必要に応じて適切に書き表す力をみるものとした。
- (2) 「読むこと」については、文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、文章の展開に即して内容を正確に理解する力をみるものとした。
- (3) 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕については、漢字の読み書き、書写、表現の技法、文法の基礎的な事項や古文の仮名遣いなどについての力をみるものとした。

2 結果の概要

平均点は 20.4 点で、昨年度より 2.2 点下がった。言葉の特徴やきまり、漢字、表現の技法等における基礎的事項の定着や、社会生活において必要な語彙の習熟が十分とは言えない。また、一定の分量の文章を展開に即して正確に読み取り、条件に合わせて適切に書き表すことについて課題がある。

(1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 2	H31	H30	H29	H28	H27
平均点	20.4	22.6	20.4	22.6	25.1	20.2

(2) 正答率の推移

年 度	R 2	H31	H30	H29	H28	H27
言葉の特徴やきまり・ 漢字・書写・表現の技法	49.9	56.9	53.5	55.9	71.8	54.0
現代文	26.4	34.4	23.8	31.4	30.2	26.7
古 典	44.6	44.2	38.8	40.3	57.0	45.4

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント

☞① 低学年での学習内容を定着させること。

言葉の単位（単語に区切ること）や表現技法（比喻）など、1年次に学習する事項の正答率が低い。基本的な文法事項や表現技法に関する知識を身に付けることは、言語感覚を磨くために必要不可欠なものなので、既習事項を繰り返し学習の中に取り入れて確実に定着させたい。

☞② 問いの内容を確実に把握する力を付けさせること。

抜き出して解答する問いにおいて、「短歌の中から」とあるのに短歌以外のところから抜き出した解答や、「考えが述べられている部分を」とあるのに「考え」とは言えない部分を抜き出した解答が非常に多い。問いの内容を正しく読み取る力を付ける必要がある。

☞③ 文章中の言葉の対応関係を的確に読み取り、表現できるようにさせること。

対比に着目をして解答する記述問題において、対比するのに適切なものを並べ比べて的確に記述できている解答が少ない。対比の構造になっていなかったり、伝えたいことを十分に書き切れていなかったりする解答も多く、読むこととともに表現することにも課題がある。適切で分かりやすい表現ができるように、推敲等についても一層の指導が求められる。

問 題		正 答	正答率	誤答率	無答率	
一	(一)	1	しんぎ	65.8	33.2	1.0
		2	ほが (らか)	55.6	42.0	2.4
	(二)	1	演劇	53.2	42.2	4.6
		2	粉	29.3	61.7	9.0
	(三)	れっか・れんが		42.0	48.0	10.0
	(四)	エ		31.5	68.5	0
	(五)	1	8	4.4	95.4	0.2
		2	一輪とよぶべく	54.2	43.4	2.4
		3	イ	52.9	46.8	0.3
	(六)	1	ア	69.8	30.2	0
		2	(例) あの建物の後ろや内側はどうなっていると思いますか	55.6	29.3	3.9
部分点 11.2						
3	エ	84.4	15.6	0		
二	(一)	ウ		38.0	62.0	0
	(二)	イ		53.7	46.1	0.2
	(三)	(例) かつては衣服を最後まで大切に使い切ったが、現代のファッションには安く買った服を使い捨てにさせるような異常な面があるということ。		8.8	54.1	5.1
		部分点 32.0				
(四)	ウ		50.5	49.3	0.2	
三	(一)	(例) 「科学的」ではないあり方は思考過程に個人の感情が入り込むが、「科学的」であるためにはあるべき筋道に沿って客観的に考えることが大事である。		2.7	80.5	4.1
		部分点 12.7				
(二)	(例) 部活動で自分が望む結果を出せなかったときに、他の人のミスや相手の強さのせいにせず、スコアをもとに分析し対策を考えることは「科学的な考え方」だ。このように考えることで、次の目標もはっきりとするので科学的な思考は大事だと思う。		4.9	66.1	18.5	
	部分点 10.5					
四	(一)	とわずということなし		60.5	37.1	2.4
	(二)	ア		62.7	36.3	1.0
	(三)	問ふは礼なり		2.0	95.1	2.9
	(四)	イ		53.4	45.6	1.0

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から10人に1人の割合で抽出した410人分の答案を対象として算出した。

社会

1 出題のねらい

「地理的分野」、「歴史的分野」、「公民的分野」から均等に出題し、社会的事象について、基礎的・基本的な知識・理解と、資料などに基づいて多面的・多角的に考察し、公正に判断する力や適切に表現する力をみることをねらいとした。

- (1) 「地理的分野」については、地理的事象を地図や資料との関係において出題し、世界と日本の地域構成、自然環境や産業などからみた地域的特色などについて問うものとした。
- (2) 「歴史的分野」については、歴史的事象を年表や資料との関係において出題し、各時代の特色と移り変わり、我が国と世界の歴史上の関連などについて問うものとした。
- (3) 「公民的分野」については、現代の社会的事象を資料との関係において出題し、政治のしくみ、経済のしくみ、現代社会の諸課題などについて問うものとした。

2 結果の概要

平均点は 19.4 点で、昨年度より 5.7 点下がった。基本的事項については一定の定着がうかがえるが、全分野を通して、社会的事象の内容や背景などを適切に表現する力、資料から情報を読み取り、既習事項と関連付けて総合的に思考・判断・表現する力などに課題がある。歴史的分野では、特に歴史の大きな流れをつかむ力が十分ではない。

(1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 2	H31	H30	H29	H28	H27
平均点	19.4	25.1	24.4	25.1	26.9	25.6

(2) 正答率の推移

年 度	R 2	H31	H30	H29	H28	H27
地理的分野	40.1	48.6	58.1	59.3	65.1	68.9
歴史的分野	34.9	42.4	50.5	52.7	55.2	42.2
公民的分野	50.9	55.4	46.4	42.6	46.3	54.3

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント

☞① 歴史の大きな流れをとらえる力を付けさせること。

いくつかの歴史的事象のつながりや歴史の大きな流れをとらえる力が十分ではない。歴史的事象を個別に理解するだけでなく、時間的推移や他との関係性にも注意しながら理解することが大切である。習得したことを活用して、まとめて略年表を作成するなど、時代を大観し表現する活動を更に充実させることが必要である。

☞② 社会的事象の内容等を適切に表現できるようにさせること。

問われたことに対して、設問の条件を手がかりに適切に答えていない解答が多くみられる。キーワードをもとに内容や因果関係などを適切に表現したり、自分の考えを論述したりするなど、社会的事象について適切に表現できるように一層の指導が求められる。

☞③ 資料等を活用して思考・判断・表現する力を付けさせること。

資料から読み取ったことと、すでに習得している知識とを関連付けて、思考・判断し、文章で表現することに課題がある。地図、統計、年表など多様な資料を組み合わせながら、必要な情報を読み取ったり、読み取った情報を整理して表現したりする活動の充実を図ることが大切である。

問 題		正 答	正答率	誤答率	無答率	
1	1	(1) ア	39.5	60.5	0	
		(2) ウ	58.8	41.0	0.2	
		(3) (例) 海岸線が複雑に入り組んでおり、波がおだやかであるため。	22.9	67.8	6.1	
	部分点 3.2					
	2	イ	34.9	65.1	0	
3	ウ	35.6	64.2	0.2		
2	1	リンカーン (リンカン)	72.0	25.1	2.9	
	2	ア	70.7	29.3	0	
	3	(例) 国民が選んだ国会議員で組織された国会の議決で指名される。	20.0	74.6	2.9	
			部分点 2.5			
	4	エ	64.2	35.6	0.2	
5	エ	70.0	30.0	0		
3	1	(例) アヘン戦争で清がイギリスに敗北したこと。	14.7	71.2	13.4	
			部分点 0.7			
	2	ウ → イ → ア → エ	7.1	92.9	0	
	3	エ	46.8	53.2	0	
	4	ウ	38.5	61.5	0	
5	C	50.0	50.0	0		
4	1	レアメタル (希少金属)	70.5	22.9	6.6	
			ウ	46.6	53.4	0
			B	45.6	53.9	0.5
	2	イ	37.3	62.4	0.3	
3	(例) 輸出総額に占める原油の輸出額の割合が大きいため、原油価格の変動に輸出総額が影響を受けるから。	9.5	60.5	7.1		
		部分点 22.9				
5	1	(例) 40歳以上の人々が保険料を支払い、介護が必要となったときに介護サービスを受けることができる制度。	38.8	61.0	0.2	
			14.4	66.1		7.8
			部分点 11.7			
	(3) ア	59.5	40.5	0		
2	ウ	49.0	50.7	0.3		
6	1	ア	48.3	51.5	0.2	
	2	(例) 幕府が朝廷を監視するため。	50.5	27.3	12.4	
			部分点 9.8			
	3	(1) 禅宗	12.4	78.8	8.8	
		(2) エ	36.8	62.9	0.3	
4	イ	43.9	55.9	0.2		

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から10人に1人の割合で抽出した410人分の答案を対象として算出した。

数学

1 出題のねらい

「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の4領域について、基礎的な概念や原理・法則の理解と、それらに基づき、数学的に考察したり、表現したり、処理したりする力をみることをねらいとした。

- (1) 「数と式」では、数の概念についての理解の程度、文字を用いた式を処理したり、文字を用いて式に表現したりする力、目的に応じて式を変形する力をみるものとした。
- (2) 「図形」では、平面図形や空間図形についての理解の程度、見通しをもって論理的に考察し表現する力をみるものとした。
- (3) 「関数」では、グラフの特徴についての理解の程度、関数関係を見いだし表現する力、関数と図形を関連付けて考察する力をみるものとした。
- (4) 「資料の活用」では、代表値についての理解の程度、具体的な事柄について起こり得る場合を順序よく整理して正しく数え上げ、不確定な事象の確率を求める力をみるものとした。

2 結果の概要

平均点は19.0点で、昨年度より0.5点上がった。「数と式」については、基礎的・基本的事項は一定の力が付いていると思われるが、十分とは言えない。「図形」、「関数」、「資料の活用」についてはまだ課題がみられる。また、各領域とも、思考力・判断力・表現力を問う記述式問題、知識・技能を活用する問題に課題がある。

- (1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 2	H31	H30	H29	H28	H27
平均点	19.0	18.5	21.8	17.9	18.5	23.2

- (2) 正答率の推移

年 度	R 2	H31	H30	H29	H28	H27
数と式	54.3	58.3	67.5	43.3	54.6	62.2
図 形	13.5	14.5	24.7	20.0	21.3	27.4
関 数	38.5	42.6	56.7	40.6	24.1	34.2
資料の活用	36.8	37.8	37.4	35.1	43.7	48.9

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント

- ☞① 基本的な四則計算や式変形のきまりを定着させること。

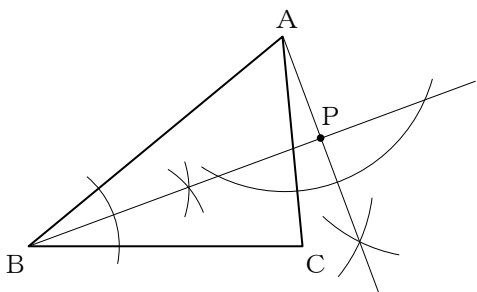
基本的な四則計算や式変形を正しく理解できていないと思われる解答が多い。小学校で学習する計算順序のきまり、分配法則や移項、分数の形で表された文字式の約分など、基本的な四則計算のやり方や式を変形するときのきまりを正しく理解させておくことが大切である。

- ☞② 文字を用いた式で数量や数量の関係をとらえ、式を変形して説明できるようにさせること。

文字式を用いて説明する問題では、数量及び数量の関係を問題文から正しく読み取り、それを文字を用いて式に表現したうえで、式変形を利用して説明できるようにすることが大切である。そのために、文字式を使って一般的に説明することの必要性和意味を理解させるとともに、文字式を活用することのよさを実感させることが必要である。

- ☞③ 自分の考えを論理立てて記述できるようにさせること。

成り立つ理由を記述する問題や合同な図形の証明問題では、与えられた条件から成り立つ式や事柄を順に説明する流れは理解できているものの、それぞれの式や事柄の成り立つ根拠を正しく示すことができている解答が多い。授業においても、問いに対する自分の考えを、理由も含めて答えさせるなどの取組が求められる。

問題	正	答	正答率	誤答率	無答率	
1	(1)	①	-2	94.4	5.6	0
		②	$\frac{4x+7y}{12}$	62.2	36.8	1.0
		③	$-\frac{2a}{b^2}$	56.8	41.2	2.0
		④	$2\sqrt{3}$	86.8	9.8	3.4
	(2)	$b = \frac{a-10}{2}$		38.3	58.8	2.9
	(3)	360 g		8.3	66.1	25.6
	(4)	$x = \frac{-7 \pm \sqrt{41}}{4}$		56.1	28.8	15.1
	(5)	$a = -9, b = 0$		46.6	48.8	4.6
	(6)	$288\pi \text{ cm}^3$		36.1	57.6	6.3
	(7)	$c < b < a$		45.1	51.5	3.4
(8)	(例)		12.4	75.4	12.0	
			部分点 0.2			
2	(1)	ア	$2n+3$	76.6	20.0	3.4
		イ	$2n+5$			
		ウ	$2n+7$			
	(2)	54		38.3	46.6	15.1
(3)	(例)		24.9	23.7	35.1	
	<p>連続する3つの偶数のうち、最も小さい偶数を $2n$ とおくと、連続する3つの偶数は、小さい順に $2n, 2n+2, 2n+4$ と表すことができる。</p> <p>この3つの偶数の和が280なので</p> $2n + (2n+2) + (2n+4) = 280$ $6n + 6 = 280$ $3n = 137$ $n = \frac{137}{3}$ <p>このとき、$2n, 2n+2, 2n+4$ はどれも偶数にならない。</p> <p>したがって、280 は連続する3つの偶数の和で表すことができない。</p>		部分点 16.3			

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から10人に1人の割合で抽出した410人分の答案を対象として算出した。

(次のページに続く)

問 題	正 答	正答率	誤答率	無答率	
3	(1)	(例) 弧BCに対する円周角は等しいので $\angle BDC = \angle BAC = \angle y \dots\dots ①$ $\angle BCD$ は半円の弧に対する円周角なので $\angle BCD = 90^\circ \dots\dots ②$ $\triangle BCD$ において、内角の和は 180° だから、②より $\angle DBC + \angle BDC = 90^\circ \dots\dots ③$ ①, ③より $\angle x + \angle y = 90^\circ$	15.1	35.4	41.9
	(2)	$\angle y - \angle x = 90^\circ$	部分点 7.6		
4	(1)	$\frac{5}{36}$	43.9	48.3	7.8
	(2)	$\frac{7}{18}$	21.5	65.6	12.9
5	(1)	(-6, 9)	77.3	18.1	4.6
	(2)	(0, 3)	28.0	56.1	15.9
	(3)	$\frac{9}{2}$	2.2	46.8	51.0
6	(1)	【証明】(例) $\triangle ADE$ と $\triangle FCB$ において 仮定より $AD = FC \dots\dots ①$ ひし形BCEDの辺の長さは等しいから $DE = CB \dots\dots ②$ $\triangle ABC$ は二等辺三角形であるから $\angle ABC = \angle ACB \dots\dots ③$ ひし形BCEDの向かい合う辺は平行で、その同位角は等しいから $\angle ADE = \angle ABC \dots\dots ④$ ③, ④より $\angle ADE = \angle FCB \dots\dots ⑤$ ①, ②, ⑤より 2組の辺とその間の角がそれぞれ等しい。 したがって $\triangle ADE \equiv \triangle FCB$	4.4	41.7	26.8
	(2)	$\frac{25}{2}$ 倍	0.7	62.0	

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から10人に1人の割合で抽出した410人分の答案を対象として算出した。

◆大問3について

目標：円周角の定理を使って成り立つ式や角度を求めよう。

中学校での学習

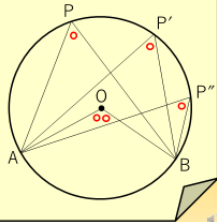
円周角の定理

[1] 1つの弧に対する円周角の大きさは、その弧に対する中心角の大きさの半分である。

$$\angle APB = \frac{1}{2} \angle AOB$$

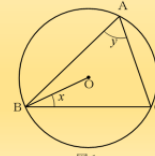
[2] 同じ弧に対する円周角の大きさは等しい。

$$\begin{aligned} \angle APB &= \angle A'P'B \\ &= \angle A''P''B \end{aligned}$$

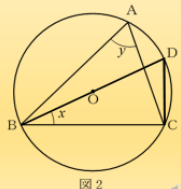


目標：円周角の定理を使って成り立つ式や角度を求めよう。

【問題】図1のように、円Oの周上に3点A, B, Cをとり、三角形ABCをつくる。半径OBと辺BCでできる $\angle OBC$ を $\angle x$ とする。また、弧BCに対する円周角 $\angle BAC$ を $\angle y$ とする。このとき、下の(1)・(2)の問いに答えなさい。



(1) $\angle y$ は鋭角とする。このとき、 $\angle x$ と $\angle y$ の関係は、 $\angle x + \angle y = 90^\circ$ という式で表すことができる。このことを説明するために、図2のように、線分BDが直径となるような点Dを円Oの周上にとり、点Cと点Dを結ぶ。 $\angle x + \angle y = 90^\circ$ が成り立つ理由を、図2を用いて言葉と式で説明せよ。



【解】弧BCに対する円周角は等しいので

$$\angle BDC = \angle BAC = \angle y \quad \dots\dots ①$$

$\angle BCD$ は半円の弧に対する円周角なので

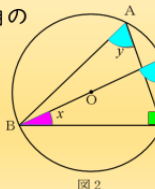
$$\angle BCD = 90^\circ \quad \dots\dots ②$$

$\triangle BCD$ において、内角の和は 180° だから、②より

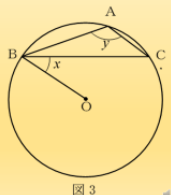
$$\angle DBC + \angle BDC = 90^\circ \quad \dots\dots ③$$

①, ③より

$$\angle x + \angle y = 90^\circ$$



(2) $\angle y$ は鈍角とすると、図1の三角形ABCは、図3のようになる。このとき、 $\angle x$ と $\angle y$ の関係は、どのような式で表すことができるか。 $\angle x$ と $\angle y$ を使った式で答えよ。



【解】線分BDが直径となるような点Dを円Oの周上にとり、点Aと点Dを結ぶ。

弧CDに対する円周角は等しいので

$$\angle DAC = \angle DBC$$

$$\angle DBC = \angle x \text{ から } \angle DAC = \angle x \quad \dots\dots ①$$

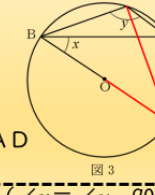
$\angle BAD$ は半円の弧に対する円周角なので

$$\angle BAD = 90^\circ \quad \dots\dots ②$$

①, ②より

$$\begin{aligned} \angle y &= \angle DAC + \angle BAD \\ &= \angle x + 90^\circ \end{aligned}$$

$$\text{よって } \angle y - \angle x = 90^\circ \quad (\angle x = \angle y - 90^\circ)$$

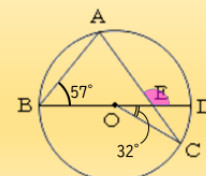


★図形の記述問題を解くポイント

- ① 必要に応じて補助線を引き、解決の糸口を見つける。
等しい辺・角、合同・相似な図形など。
- ② 成り立つ理由(根拠)をきちんと書く。
「AだからBである」など。
- ③ 証明問題は、最後に結論を書いて終わる。
「よって、Cが成り立つ」など。

【チャレンジ問題】

図のように、点A, B, C, Dは円Oの周上にある。BDは円Oの直径であり、直径BDと弦ACの交点をEとする。 $\angle ABO = 57^\circ$, $\angle COD = 32^\circ$ であるとき、 $\angle AED$ の大きさは何度か。



高知県教育委員会 家庭学習支援動画ライブラリー (高知県教育センターHP 掲載)

URL <http://www.kochinet.ed.jp/center4/douga/index.html>

【高等学校】数学A 図形の性質 円周角の定理の利用 から一部抜粋

※ 家庭学習支援動画ライブラリーでは、「【高等学校】国語総合 対比表現を使って効果的に伝える」「【高等学校】コミュニケーション英語Ⅰ まとまりのある英文の要点を聞き取る」でも、学力検査問題を取り上げていますので、参照してください。

理科

1 出題のねらい

「第1分野」、「第2分野」から均等に出題し、自然の事物・現象について、基礎的・基本的な知識・理解と、観察・実験などを通して科学的に考察したり、適切に表現したりする力をみることをねらいとした。

- (1) 「第1分野」については、物質やエネルギーに関する実験などをもとに出題し、溶解度と再結晶、静電気と電流、化学変化と物質の質量、仕事とエネルギーなどについて問うものとした。
- (2) 「第2分野」については、生物とそれを取り巻く自然の事象に関する観察などをもとに出題し、刺激と反応、地震の伝わり方、植物の仲間、地球と宇宙などについて問うものとした。

2 結果の概要

平均点は23.3点で、昨年度より2.4点下がった。「第1分野」・「第2分野」ともに、基礎的・基本的な科学用語については一定の定着がうかがえるが、実験によって得られた数値を数式に当てはめ計算したり、観察・実験に関する基本操作や科学的な事象が発生するしくみを文章で表現したりする能力に課題がみられる。

(1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 2	H31	H30	H29	H28	H27
平均点	23.3	25.7	23.7	19.9	24.4	20.4

(2) 正答率の推移

年 度	R 2	H31	H30	H29	H28	H27
第1分野	37.0	49.0	45.4	37.7	45.6	41.8
第2分野	61.4	55.3	52.7	47.7	56.3	45.3

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント

☞① 基本的な科学用語の意味の理解を図ること。

科学用語を答える問題の正答率は概ね良好であるが、説明問題の解答では用語を正しく使えておらず、理解できているのか疑問に感じられる例が少なくない。単に用語を暗記するだけでなく、その意味を説明できるようになるまで理解を深めておきたい。

☞② 元素記号、化学式や化学反応式の基本的なルールを身に付けさせること。

元素記号の大文字・小文字の区別、化学式・化学反応式中の数字の位置や大きさの使い分けができていない解答や、化学反応式の両辺で原子数が一致していなかったり、同一の物質が両辺に書かれたりしている解答が多い。元素記号、化学式、化学反応式と、生徒に定着しているかどうかをチェックして、着実に段階を踏んで指導していくことが大切である。

☞③ 正しく式を立てて数値を当てはめ計算し、答えを導けるようにさせること。

計算によって解答を求める問題の正答率が全般に低い。日常的に演習を数多く行い、出題に応じて適切な式を使いこなす、計算ミスをしないように訓練を重ねる必要がある。

☞④ 科学的な事象を文章で適切に表現できるようにさせること。

科学的な事象について、そのしくみや原因・理由等を文章で答える問題において、与えられた条件が満たされていない解答や、問題の意図を踏まえた説明ができていない解答が目立つ。5W1Hを意識しながら、科学的に矛盾がなく、主語・目的語・述語の関係が明確で、第三者に意図が的確に伝わる文章を書ける能力を身に付けさせたい。

問 題		正 答		正答率	誤答率	無答率					
1	1	(1)	反射		85.6	10.2	4.2				
		(2)	感覚神経		54.9	40.2	4.9				
		(3)	イ		48.3	51.5	0.2				
	2	(1)	8.3 %		21.0	73.2	5.8				
		(2)	5 g		22.2	66.3	11.5				
	3	(1)	Y	7	Z	10	44.4	55.1	0.5		
		(2)	イ		77.1	22.9	0				
		(3)	マグニチュード		89.0	8.8	2.2				
	4	(1)	あ	-	い	+	う	-	47.6	52.2	0.2
		(2)	放電		54.9	36.6	8.5				
2	1	胞子		75.8	21.5	2.7					
	2	(例) からだの表面から、直接水を吸収している。		40.5	54.1	5.4					
	3	(1)	裸子		72.7	25.1	2.2				
		(2)	ア		71.2	28.8	0				
		(3)	(例) 葉脈が、葉の細長い方向に平行に並んでいる。		53.2	38.3	8.5				
(4)		ウ		65.9	34.1	0					
3	1	$\text{NaHCO}_3 + \text{HCl} \longrightarrow \text{NaCl} + \text{H}_2\text{O} + \text{CO}_2$		26.1	60.2	13.7					
	2	質量保存の法則		81.0	14.4	4.6					
	3	ア		71.2	28.3	0.5					
	4	(例) 火のついた線香を気体 Y の中に入れる。		43.7	48.5	7.8					
	5	銀	1.58 g	33.4	53.4	13.2					
気体 Y	0.12 g										
4	1	エ		48.8	51.0	0.2					
	2	(例) 金星は地球より内側の軌道を公転しているから。		45.9	48.0	6.1					
	3	ウ		48.1	51.7	0.2					
	4	イ		67.8	32.2	0					
	5	衛星		68.3	28.0	3.7					
	6	(例) 月が地球のかげに入るから。		47.6	48.8	3.6					
5	1	エ		48.8	51.2	0					
	2	ウ		25.6	73.7	0.7					
	3	(例) 糸を引く力の大きさと糸を引く距離を変えずに、力の向きを変えるはたらきがある。		32.0	54.1	13.9					
	4	0.05 W		5.4	85.3	9.3					
	5	ワイヤーを引く力の大きさ		200 N	5.4	86.3	8.3				
ワイヤーを引く距離		18 m									

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から 10 人に 1 人の割合で抽出した 410 人分の答案を対象として算出した。

英語

1 出題のねらい

「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の3領域について、基礎的・基本的な知識・理解と、英語によるコミュニケーション能力をみることをねらいとした。

- (1) 「聞くこと」については、放送される初歩的な英語を聞き、その概要や要点を把握する力と問いなどに適切に応答する力を見るものとした。
- (2) 「読むこと」については、まとまりのある英文を読んで、その内容を理解し、概要や要点を的確に読み取る力を見るものとした。
- (3) 「書くこと」については、基本的な語を正しく書く力、初歩的な英語を用いて伝えたいことを正しく表現する力、考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書く力を見るものとした。

2 結果の概要

平均点は24.7点で、昨年度より2.4点下がった。聞いたり読んだりして、概要や要点をつかむことについては一定の力がみとめられるが、語順や時制などの基本的な文法事項を理解すること、場面に応じてまとまりのある英文を書くことについては課題がある。また、聞いて書く、読んで書くなど、技能を統合的に活用する力を問う問題は全体的に正答率が低い。

(1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 2	H31	H30	H29	H28	H27
平均点	24.7	27.1	25.8	26.8	25.4	27.7

(2) 正答率の推移

年 度		R 2	H31	H30	H29	H28	H27
理解の能力	聞くこと	67.6	65.4	74.2	68.4	74.9	72.5
	読むこと	59.8	60.5	53.7	58.8	56.5	63.2
表現の能力	書くこと	22.5	33.3	30.6	30.5	24.8	35.3

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント

☞① 基礎的・基本的内容を確実に定着させること。

状況や英文の文脈に合わせて、使用すべき語や語形を判断する力がまだ十分とは言えない。語単位の指導ではなく、実際の使用場面を想定した言語活動において、語順や時制などの基本的な文法事項と語彙の定着を図ることが求められる。

☞② 技能を統合的に活用する力を付けさせること。

リスニングにおいて、聞き取りのポイント(選択肢)が示された問題の正答率が高いが、英語のクイズを聞いて英語で答える問題の正答率は非常に低く、放送される英文のみで要点をとらえ英語で答えることには課題がみられる。また、メールを読み、返信を書く問題では、メール中で問われている内容は理解できているが、場面に応じて適切に英語を書くことに課題がある解答が多い。日頃から、実際の生活において英語を使用する場面を想定し、英語を聞いたり読んだりして要点を理解するとともに、内容について自分の考えを英語で話したり書いたりする活動が必要である。

問 題		正 答	正答率	誤答率	無答率	
1	A	No. 1	エ	98.5	1.5	0
		No. 2	ウ	73.9	26.1	0
	B	No. 1	ア	75.4	24.6	0
		No. 2	エ	28.0	72.0	0
	C	No. 1	イ	86.6	13.4	0
		No. 2	ウ	88.0	12.0	0
	D	No. 1	イ	69.3	30.7	0
		No. 2	エ	82.4	17.6	0
		No. 3	ア	40.7	59.3	0
		No. 4	イ	87.8	12.2	0
E	December	13.2	57.8	29.0		
2	1	ア	53.4	46.3	0.3	
	2	(1)	ウ	81.5	18.5	0
		(2)	ア	58.3	41.5	0.2
		(3)	イ	60.7	39.3	0
	3	ア	54.9	45.1	0	
3	1	エ	61.5	38.5	0	
	2	ウ	52.2	47.6	0.2	
	3	イ	46.6	52.9	0.5	
	4	エ	68.8	30.0	1.2	
4	1	know a shop that sells cool	50.5	48.3	0	
			部分点 1.2			
2	2	gave me these beautiful flowers	45.1	49.3	0.2	
			部分点 5.4			
5	1	(1)	problem	23.4	70.5	6.1
		(2)	changed	12.7	70.2	17.1
	2	(1)	(例) There are 520 students and 30 teachers in our school.	21.5	38.0	13.4
				部分点 27.1		
	(2)	(2)	(例) Our school festival is held in October.	2.7	46.3	18.1
				部分点 32.9		
	3	(例)	Manga, Japanese comics, are very popular in Japan. Many young people read <i>manga</i> in their free time. Reading <i>manga</i> is a lot of fun and makes them happy.	1.9	19.8	23.4
		部分点 54.9				

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から10人に1人の割合で抽出した410人分の答案を対象として算出した。

高知県教育委員会事務局高等学校課

高知市丸ノ内1-7-52

電話 (088)821-4907

FAX (088)821-4547